

昭和四年九月二十八日招集(光号)  
第三回市議会定例会會議錄



館山市議会第三回定例会会議録(第一号)

昭和四十一年九月招集

一九月二十八日(水曜日)

一現在議員三十四名了り、氏名次々とあり、

一番吉田 勇治郎

二番鈴木 正一郎

三番小柴 孝

四番館石 伝蔵

五番田中 祿郎

六番秋山 六三郎

七番田村 源治郎

八番望月 照正

九番安西 益男

一〇番辻田 実

一一番石井 正

一二番菊井 敏博

一四番志村 信作

一五番小沢 恵太郎

一六番関 武夫

一七番黒川 佐太郎

一八番西村 真次

一九番藤田 好治

二〇番保科 忠夫

二一番江田 徳太郎

二二番 君塚喜三

二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎

二五番 萩生田七郎

二七番 嶋田繁

二八番 山田教宇

二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤亀吉

三一番 安沢徳順

三二番 三沢節

三三番 高橋文治

三四番 山本昇

三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一 議事日程(第一号)

第一 報告第三号

安房中央土地改良区の経営状況説明書ヲ

提出について

議案第五十号

職員団体、登録に関する条例、全部を

第二

改正する条例の制定について

議案第五十一号

職員団体、ため、職員、行為の制限、特

例に関する条例の制定について



議案第五十一号

館山市取負う旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十二号

館山市長助役収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第三

議案第五十四号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十五号

館山市証人等、実費弁償に関する条例の制定について

第四 議案第五十六号

館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

第五 議案第五十七号

市道路線の認定及び廃止について

第六 議案第五十八号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

議案第五十九号 昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算

議案第六十号 昭和四十一年年度館山市休養施設特別会計

第七

補正予算

議案第六十一号 昭和四十年年度館山市館山ユース・ホテル特別会計

補正予算

議案第六十二号 昭和四十一年度館山市上水道事業特別会計補

正予算

一、法第百二十一条による出席説明員

市長

本間 謙

助役

小出 武男

収入役

完 戸 貴

秘書課長

小倉 澄男

企画課長

谷 貝 茂 生

庶務課長	山口 実
財政課長	長谷川 広治
市民課長	羽山 房雄
調査課長	高木 哲三
収納課長	多田 俊一
商工観光課長	小澤 正治
農林水産課長	伊藤 幸太郎
土木課長	新井 重助
建築課長	池田 春雄
衛生施設課長	吉田 耕一
保健衛生課長	池田 亮山
福祉事務所長	鶴澤 貫寛
教育課長	押本 禧逸
教育委員会 庶務課長	干場 伊左門

同  
学校教育課長

山根春夫

同  
社会教育課長

源間利一

消防本部次長

石渡東

選挙管理委員会  
書記長

大嶋重義

監査委員会  
事務局長

館石勘治

農業委員会  
事務局長

山口太一

診療所事務長

平柳徳藏

一本議会、事務局長、事務局長補佐及公書記

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

矢藤恭一

同

錦織睦子

出席議員

三十三名

欠席議員

一名

午前十時三分 開議

議長(田中祿郎君) 本日出席議員数 三十一名

こゝより第三回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査のため地方自治法第百三十一条の規定による出席要求に對し、本間市長、小出助役、完戸收入役、小倉課長、小沢課長、谷貝課長、山口課長、長谷川課長、池田課長、新井課長、伊藤課長、羽山課長、高木課長、多田課長、鶴沢所長、池田課長、吉田課長、大嶋書記長、館石局長、山口局長、平柳事務長、石渡次長、押本教育長、干場課長、山根課長、原間課長、中村主事、以上の者が出席する旨の報告がありました。議案を配付いたさせました。

配付願いありませんか。——なしと認めます。

会議録署名員、決定を行います。本定例会の会議録署名員に九番議員 安西益男君、二八番議員 山田敬宇君、以上両君を指名いたします。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定いた  
しませんでした。

会期、決定を行ないます。

本定例会の会期につき議会議長が協議会より意見は本日  
から十月三日まで六日間ということでありま  
す。おはかりいたします。会期を本日より十月三日まで六  
日間と定めます。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって会期は六日間と決定いたしました。

本日議事はお手元に配付の日程表により行ないます。  
二より市長の説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間讓君) 議案説明を求めます。

本日三十三回定例市議会を招集いたしました上程いたします付議事件はまず、報告関係といたしまして、

昭和四十年度における安房中央土地改良区の経営状況  
と地方自治法の定めるところにより提出するものであります。

次に一般議案関係といたしまして、一七〇八十七号条約  
の発効に伴い地方公務員法中たな上げ部分の一部在籍  
専従に関するよう規定を除いて全面的に施行される

ことに伴ひ、取員団体への登録に関する条例の全文  
改正及び取員団体への取員行為の制限の特例  
特例に関する条例の制定並びに取員団体への行なう  
交渉に関する部分が地方公務員法中に規定される  
ことに伴ひ、取員団体への行なうの交渉に関する条例は  
廃止しようとするものであります。

次に学校安全共済掛金徴収条例の一部改正であります  
が、これは日本学校安全法施行令が改正されたことに  
伴ひ、本条例の一部も改正しようというもので、これは  
医療費単価の引き上げ、及び最近における児童生徒  
の災害の実情にかんがみ、給付内容の充実をはかること  
及び、医療費見舞金の支給期限を一年から二年に  
延長するため掛金の増額を行なうとするものであ  
ります。



次に館山市取員の旅費に関する条例、館山市長、助役  
収入役、給与及び旅費に関する条例、館山市教育長  
の諸給与及び勤務条件等に関する条例及び館山市  
証人等実費支弁に関する条例の制定及び一部改正  
であります。が、これは当該法律の改正による条文整  
理及び最前における物価の上昇等を考慮して旅費  
及び費用弁償の増額を行なうとすることをしております。  
次に市道路線の認定及び廃止についてであります。が、こ  
は市道の改良に伴い館山鉄道診療所前より千葉集  
販購連の女房支所地先に通ずる道路を廃止し、新たに  
館山駐車場前からみなと屋洋品屋前に至る市  
道を認定についてお願いしようというものであります。  
次に予算関係といいたしまして一般会計ほか、四特別会  
計の補正予算でございます。が、一般会計において補正

しようとするおもなものは、総務管理費関係で広報  
宣伝自動車及びマイクロバスを購入費として二百十八  
万円、西岬敬愛寮官駐在所建築工事費として百  
三十五万円、民生費関係で青少年育成のため補助  
金等で三十四万円。

農林水産費関係でし字溝コンクリート管等や購  
入費として八十一万五千円、伊戸漁港しゅんせつ工事請  
負費六十五万円、土木関係で一般道路維持・補  
修用砂利購入費百万円、市道大神宮舗装工事  
請負費百七十万円、市営住宅給排水工事請負費  
等で百三十五万八千円、消防費関係で消防積載車  
購入費として四十万円。

教育費関係については、西岬小学校土手、うわ積み  
工事費、神戸小学校排水工事、船形小学校校廊下

工事及び北条小学校学校放送器購入等で百一十六千円  
西岬中学校玄關新築工事費として六十万円、館高  
土地購入費として四十一万六千円、館山幼稚園手洗所  
新築工事費等で六十三万四千円等であります。  
補正総額千六百三十万四千円でございますが、財源といひ  
まゝでは、国県支出金、三百九十九万六千円、地方債七百九  
十万円、その他七十九万四千円、特定財源ほか一般財源  
をもち、充当しようというものであります。

なお債務履行行為補正として、市営プール浄化  
装置工事讀負費を減額変更しようというものでま  
た、地方債につきまゝでは、新たに街路整備負担金事  
業費二百五十万を起こし、通港建築負担金債港湾  
修築負担金債、公営住宅建築事業債等、増額  
内示があつた地方債をせよと変更し、増額しよう

うもつてあります。

その他特別会計といひまゝて国民健康保険関係で  
百万六千円、休養施設関係で九十六万五千円、  
ユースホステル関係で十六万、上水道関係で三十万六千  
円の補正を願ひようといひまゝてあります。

以上議案につきまゝて簡單でございしますが、くわしい  
ことにつきましては各課長から御説明申上げます。  
よろしく慎重審議をほどを願ひいたす次第でござい  
ます。

議長(田中敬郎君) 日程第一報告第三号を上程いたし  
ます。

(書記朗読)

報告第三号 安房中央土地改良区の経営状況説明書  
提出について

農林水産課長（伊藤幸太郎君）報告第三号につきまゝ御説  
明申上げます。

地方自治法第二百四十二条第二項でございますけれども、  
市町村が損失補償等と与えております。団体等に対  
しまして毎会計年度、事業報告を徴しまして、議会  
に報告することに規定が相なっております。要房中  
央土地改良区に対しましては、前年損失補償の決議を  
お願いしてございまして、この規定に基きまして別冊  
のとおり昭和四十年年度、決算書並びに財産目録事  
業報告書と御報告申上げる次第でございまして  
よろしくも願ひいたします。

議長（田中祿郎君）説明を終りました。御質疑がございま  
すか。

七番（田村源治郎君）決算書、提出して、決算をやった人

その者の資格の説明をいいたくないと思ひます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 決算書の認定はどこでや  
たのかという御質問だと思ひますが、これは土地改良区  
の総代会におきまして、決算認定をやることになっており  
まして、去る三月の末に総代会が開かれまして、総代会  
の総会におきまして、本決算書が認定されておるわけで  
ございます。

・七番(田村源治郎君) 総代会でやうて、市は見えないのか、市  
は確実に調査をいたしておりますか、もう一回説  
明をいいたくない。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) ただ今申し上げましたとおり  
、これはあくまでも、女房中央土地改良区の決算でございます  
、まして、ただ、私も、方としましては、御承知のとおり  
、補助金等も出ておりますので、一応提出を受け

まゝ一応調査検討はいちております。

決算書とあり一応間違いないようでございますので報告  
申上げたいわけでございます。

七番(田村源治郎君)一応おさめて一応調べたんだ。議会に對す  
るものは責任を持って提出すべきだ。一応調べたとい  
うことはあまいいう決算である。一応とは何だ。

市は莫大な金を出してある。市からくる金は末端に  
くるとふにふにになる傾向がある。果たして監督が  
行き届いておるか。

二、報告書は責任を持って確実に調べた。間違いない  
だというものでなければならぬ。もう一回説明していただ  
きたいと思ひます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)先ほども申上げましたとおり  
法律に基きまゝに正規の改良区に総代会におきまして



この決算はなされてゐるわけでございます。従いまして私どもが直接の問題としてまいりますは補助金等との関係がどうなつてゐるのだということがまず考えらるわけでございますので、そのうちを中心として一応という言葉がひつかつたやうでございしますが、調査して提出を申し上げなわけでございます。

私どもは総代会で認定さうな決算に対しては審議権と申しますか、そういうものはないわけでございますが、内容が正確という点につきましては、先ほど申し上げましたものを調査いたしまして、総代会で認定通り相違ないことが認めらうなもので本報告書を提出申し上げなわけでございます。

一番(辻田実君)議事の進め方について、関連してお伺いしたい。ただ今、報告第三号につきまして、わずか執行部



の提案が一分足りず、二ページにわたる膨大な資料を  
見てください。すぐ質問議案を渡されたのが十数分前  
私ども何が書いてあるかわからない。二ページありますよ。  
内容を認識する程度、余裕を与えていただきたいと  
いうことをお願いするわけです。

私、質問は二点、もう一つについてはいかに説明願いた  
いということと、そうでなければもう一つ、余裕を与えて  
いただきたいということとです。

・三五番(松本藤太郎君)ニ、三も尋ねたいです。

調定額ですが、これは当初七、八年前に中央ダムを作  
ろうというとき加入。そういつたところ、現在加入して  
いないという二つも、途中で聞いたことがありますが、こ  
の調定額たるものは現にミニに加入してあるものを対象に  
した調定額である。というふうに思います。その点を

お伺いしたい。

それからいま一つ、未徴が非常に多い。調定額に対して三五%も未徴になっておる。こういうことです。と今後仕事を進めていく上に原資にいき詰まってくる。借金をする。市が裏番をする。こういうことであると思うんですが、この未徴の原因がどう心配するほどでなければ結構ですが、それについて教えてもらいたい。それから今後何年位たったら完成する見通しなうか。こういう点をもうおわかりでしたら、お答え願いたいと思います。農林水産課長(伊藤幸太郎君)お答え申し上げます。

まず、賦課金の問題でございますけれども、これは今お話がありまして、若干入る。入らない等々問題で、部落的に二、三まだあるようでございますが、一か二ながら、この賦課につきましても、一応全部の

問題が生じております部落を含めまして賦課しております。

第三点の未徴収問題・未収金の問題でございますけれども四十年度の状況を見まするとこの表にもございます徴収率が約六五％。この回収につきましては最終的な方法としますればあくまでも法律的に差押え処分そういった強硬手段を講ずる以外にないと思っておりますけれども、現況におきましてはできるだけ土地改良区の役員さんも問題がございます各部落、或いは個人そういった方たちと十分話し合いを進めましてでございます。瑞納処分等をたさずに回収していきたいという方針で、現在土地改良区としては進めておるようでございます。一か一ながら最終的にはただ今申し上げましたとおり法律で許されております強硬執行そういった

もうをえらざるを得ない状況も生ずると思います。

それから今後が見通しでございますが、御参考までに申  
上げますと、四十年度までに工事にかけまして、額が  
約二億七千万、四十五年度九千二百万予定しておりますが、  
ございます。この予定で仕事が進められておりますが、

四十二年度から四十四年度で完成を見込んでおりますので、  
一応見積りといいたしましては、四億千六百万、合計二億工事  
費が概略七億七千万、百五十万というふうなことで計画が立て  
られておるわけでございます。四十四年度を完成目標と  
して、果が本腰を入れますと進めておるわけでございます。  
ですから一年でも二年でも早くいたらない。それには、  
賦課金の問題等出て参りますので、それからからみ  
合わせまして、目標内に完成させないということでは、果も  
考えております。土地改良区としましては、解決に努

力をいたしておるような状況でございます。

・三五番(松本藤太郎君)大体わかりました。賦課をいたしまして、  
たところもございしますが、我々が入っておらないのだと  
いう部落といますか。そういうところがあると前々から  
聞いておるんですが、そういうところに賦課しておっても同  
じ未徴として徴収ということではなくて、もう思う  
うんですが、こういう点をダム工事を始めるときに承知し  
ただかりもう絶対にだめなうだというような拘束するよ  
うな根拠でもあるのでございますか。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)現況におきましては、一応問題  
のある部落等も賦課されておるわけでございます。  
ただ、調印が済んでおるからあくまでも脱税が認められ  
ないで、そのままの状況で進めていかなければならないの  
だ、という趣旨ではございませんで、やはり水を持って参り

ます。道順等、関係、そういつた意味から参りましてもまた必要度からいたしましても、当然土地改良区に入ってもらふことが有効適切だというような判断も加わつてゐるわけでございまして、あくまでもそのまま、誰めていくのだということでもございしないで、それらを説得して解決して参りたいということでもございます。

・三五番(松本藤太郎君)もう一点中央ダムう会計といひますか、経理内容ですか、その監査ですわ。当然あると思ふんですが、市の監査というものは、市から出てゐる金だけのものであつて、内容全部届かないと思ひますが、これは県の監査、かんかを受けておりますか、その点。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)工事費、そのものにつぎましては、御承知のとおり、県営事業でございまして、土地改良区といひまゐつては、ただ、賦課金を納付するのだ

ということでございますので、工事そのものについては果実事業で果自体で進めておるわけでございます。

議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午前 十時三十八分 休憩

午前 十時五十三分 再開

議長（田中祿郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。  
一番議員の質問に対してまゝて執行部より答弁を求めます。

助役（小出武男君）お答えいたします。本項の報告でございますが、これは地方自治法に書いてありますように財政状況などを市長が報告を受けてそのままを説明を付けて議会に報告するという規定でございまして、

二、これは一般の議会に対する報告事項でございます。内容について審議は関係ないということに考えております。議会で承認を受けてもらう報告は、自治法にきめてあります。専決処分とかこういう特定のもうについては議会の承認を必要としますが、その他一般のもうについては報告はしつぱない。もちろんこれに対する質疑はございましょう。けれども報告内容、それもうについては審議の対象に考えないということ。簡単と申しては失礼でございしますが、急拠出しまして報告いたということでございますので、御承認願います。

・議長(田中祿郎君) 一、審議員、第二点の質問でございますが、ただ今、助役から答弁がございまして、たのび、承知いただきます。

議事についておはかりいたします。



日程第二議案第五十号から議案第六十二号までの各議案は二の隙一括上程——二の隙二の隙が内容の説明を行ないたいと思います。二の隙御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたします。

議案第五十号乃至六十二号を一括上程いたします。なお、二の隙際おはかりいたします。

ただ今議題となりまして各議案は朗読を省略いたします。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって各議案は朗読を省略——二の隙より順次説明を求めます。

秘書課長(小倉隆男君) 議案第五十号につきまして提案う

趣旨を御説明申し上げます。

取員団体登録に関する条例の改正でございますが、  
 これはエルの条約の批准に伴いまして地方公務員法が  
 登録制度に関する全面的な改正がされたということに  
 関連しまして本市におきましてすでに制定されておしま  
 した取員団体<sup>等</sup>の登録に関する条例を全文改正をする  
 必要があるというところでございます。

それはただ今まで登録機関が市長でございまして、  
 これは公平委員会となるということ、並びに登録の効力  
 の停止という新条項が発生したということ、並びに登録  
 条項が細かく法律で定められた及び申請の記載事項  
 とか、そういうようなものが条例事項となったということに  
 関連いたしまして、本取員団体登録に関する条例  
 を全文を改定提案した次第でございます。

逐条的に御説明申し上げますと第一条におきまして、この  
条例の目的をうたつてあります。

第二条におきまして登録の申請、これは五十三条の第一項  
にありまして規定されております。条例事項といふにま  
て、取組団体が公平委員会に登録を申請する場合に  
次の各号に掲げる事項を記載し、正副二通の申請書  
というように規定しなければならぬというように、こ  
こに上げられた次第でございます。

二項でございますが、前項の規定による申請書は次に掲  
げる書類を添付しなければならぬ。これは地方公務員法  
第五十三条の第三項による、この登録に要しまする  
申請書に記載しますところのいろいろ取組団体におき  
まして決定された事項がいわゆる正当なる行為によつて  
行なわれたものであるというものをうたわなければならぬ。

という地方公務員法を改正によって申請事項の内容を  
上げた次第でございます。

第三条でございますが、これは五十三条の五項の規定によ  
る条例事項というところで公平委員会は登録申請を受け  
た日から三日以内に登録しなくては取員団体に通知し  
なければならぬ。

第四条におきましては七項八項が関係する。登録を受け  
た団体は規約記載事項に変更があつた場合解散した  
ような場合に十日以内に公平委員会に書面をもって届出  
なければならぬ。それらは条例によって定めるといふ地  
方公務員法の規定でございますので、それら条例事項  
として掲げた次第でございます。

第五条登録の効力停止、新たに加えた公平委員会は  
取員団体の登録の効力を停止し、または登録を取り

消すことを新たに設定せしめたので、ここにうけた次第で  
ございます。

第六条におきまして、二条の条例に定めるほか必要な事項は  
公平委員会規則で運営するうだということでございます。  
附則として交付の日から施行する。それに関連いたしま  
して、もう一つ、附則ニハ、地方公務員法の改正で、取  
締り団体、交渉に関する条例が五十五条に明細にうたわ  
れたので、ただ今まで、本市にありまして、取締り団体  
の交渉に関する条例というものが、必要なくなつたので、こ  
れを廃止するとういうことでございます。

続きまして、議案第五十一号でございますが、取締り団体  
の取締り行為の制限の特例に関する条例の制  
定でございます。

ニハ、地方公務員法三十五条におきまして、取締りに  
注意す

る義務があるということがうたわれておりますが、I.L.O.  
条約等の批准に伴いまして、団結権の自由、団体交渉  
そういふすべて労働組合活動に対するいろいろな権  
利を尊重するために、ここに地方公務員法五十五条の二  
の第六項に、取員団体うためり取員う行為の制限をう  
たつた次第でございます。

「取員は条例で定める場合を除き給与を受けながら  
取員団体うためり業務を行ない、または活動してはな  
らない」という第六項がございますので、第六項の特例  
を条例事項といたつた次第でございます。整理した内容  
が二つにうたわれておりますが、すなわち五十五条の団  
体交渉、第八項に適法な交渉を行なう場合給与を  
もういながら交渉をうていふだということがうたつてお  
ります。こゝところにおさまりて、これを明文化したと、いふことと

第二項におきまして休日特に勤務を命じられた場合を除くわけでございますが、休日は取員に与えらるる勤務しないでも給与を支給されている時間でございます。で、一か一ながら休日を与えられたということにおきまして休日及びさらに年次有給休暇と休暇の期間、この期間にも組合として、行為をすることができるといふことでございます。

日曜日等は勤務を要しない日ということになっております。給与も支給対象日になっておりません。で、日曜日、休暇時間、三つともは、特にミニというたわなかつたのでございます。以上が五十一号でございます。

議案第五十二号でございますが、館山市取員の旅費に關する条例の一部改正でございます。

最初二つは先般の議会におきまして館山市学校取員



給与条例というものが廃止されたのでございますが、その関係条文が訂正されておらなかったで、ここに学校取  
 員給与条例に関する部分ということをお削らしていただき  
 ました。

第三条第三項中、地方公務員法第三十八条第六項を  
 第四項に改めるということも地方公務員法の改正によ  
 り、第六項がなくなつて、まづ第六項にあつたものが  
 第四に訂正されたということで改正したわけでござい  
 ます。旅費の額でございますが、時代の要請に伴いま  
 り、等が出張になりまして、いろいろな費用等もかさ  
 んで参りますので、ここに増額になりました。旅行  
 目的を月俸にせよ、めたいということでも増額した  
 わけでございす。

日当におきまして、各五十円ずつ、宿泊料におき  
 まして、各五十円ずつ、増額を提



案一は次第でございます。

別表第二の移転料でございますが、これは時代に即応しない安いものであったわけでございますが、本市に頻度が高いわけではないうでございしますが、諸般の事情、特に技術職員等外部から求めなければならぬ。そういうようなときにおきまして、やはり支給するものが正当な額をもつて支給されていないと技術者への取得というものも困難になつて参りますので、館山市の現行のその他の規定に見合うものをここに提議した次第でございます。国家公務員法におきまする移転料の下から三つの段階をここに採用さしていただきます。

なおこれは十月一日から適用するということでございます。議案第五十三号でございますが、これは旅費額の改定に当りまして、全般的に行なつたわけでございまして、その

うち、三役、旅費をやはり五百円ずつ、さらに日当、食料、五円ずつ上げたいということでございます。

五十四号でございますが、これは館山市の教育長の諸給与でございますが、ただ今まで教育長の旅費におきましては一般取の一等級、取員の旅費額を適用しておるのでございますが、教育長は市、五役、一人ともいうから、三つでございますが、特別職と同額の旅費を規定して適用する、という改正でございます。

議案第五十五号でございますが、ただ今まで館山市におきまする議会及び委員会請求出頭者並びに公聴会参加者の費用、弁償支給条例、費用弁償の額が一日二百円というあまり、時代に即さない低額であった、というところから、いろいろ方々を条文的に目的、ないまじりとあり、館山市証人等、三つ、言葉が各市

にも条例文として使われておりますので、訂正してやったわけではございますが、あくまでも内容は前回やつております。なもうと同一のものでございます。地方自治法二百七条に於る出頭、公取便等法、農業委員会等に関する法律、市議会等に出頭または参加した者に対する実費弁償を目的とするというところで、第二條におきまして、館山市の非常勤の特別取の取員にかかる報酬及び費用弁償に関する条例というのがありまして、議会の議員は市の特別取と同額を払う。

その他特別取の場合には一等級と同額を払うのだという附則がございますが、ここに新たに実費弁償に関する条例を制定したいというものでございます。

なおこれを公布する日、十月一日から適用して、従来までの議会及び委員会請求出頭者並びに公聴会参加者の費

用平償支給条例は廃止したいという趣旨のもとに提案した次第でございます。

教務庶務課長（干場伊右エ門君）議案第五十六号につきまゝ一、御説明申し上げます。

館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、今回日本学校安全会施行令の一部改正に伴ひまして施行令の第五条で共済掛金の額が三十六月から五十八月に上げられました。

これは医療費の単価が引き上げ等によつて災害共済支給金額が増大し、給付財源に不足を生じたために、それと給付内容を充実するために医療費及び見舞金等の支給期間、今まで一年であつたものを二年に延長すること、三ついうことで改正されたのであります。

従いまして館山市の学校安全会より共済掛金より徴収条例の一部を改正するものでありますが、第一条に定められている金額、今までは十八月であつたんですが、それを二十九月に改めるものでございまして、二十九月というのは、保護者負担でございまして、あとう半額は設置者が負担するということでございます。この条例が公布の日から施行して四十年四月一日から適用するということでございます。よろしくお願ひいたします。

・土木課長(新井重助君)議案第五十七号につきまして御説明申し上げます。

本件は市道路線より認定及び廃止でございますが、市道七十九号線と申しますのは、鉄道診療所より脇にございまして、九十二メートル幅員平均二メートルというのでございまして、その隣に認定道路としてございまして、市道

六百十号線として今回認定しようというものでございます。  
 二、延長が九十二メートル幅六メートル認定道路は三十三年  
 に道路改良になりまして新設したのでございますが認定  
 廃止の手續きが遅くなりました。今回上程する次第になつた  
 のでございます。よろしく願ひいたします。

・財政課長（長谷川広治君）議案第五十八号につきまして御説  
 明申上げます。

四十一年度の一般会計補正予算第三号でございますが  
 今回追加補正におきまして第一条に千六百三十万四千円  
 を追加いたしまして八億五千三十一万三千円ということにな  
 います。一たいというところで計上いたしたものでございます。

千六百三十万四千円の内容として申上げますと、歳入面に  
 おきまして純追加額千六百三十五万四千円、更正額が五  
 万円、歳出面におきまして純追加額千七百七万六千円、

更正額が七十七万二千円に相なっております。

ニハと財源関係から申しますと特定財源が千二百六十  
十九万一般財源が三百六十一万四千円という数字になつて  
おります。その比率は七一%対二九%という構成比率  
になつております。

追加あるいは補正の内容につきましても、四ページからで  
ございしますが、詳細につきましても、それぞの主査課長  
から御説明申し上げます。

第二条で今回債務負担行為の変更を計画いたしまして  
ニハも主査課長から御説明申し上げます。

さらに地方債の補正を第三条でいれてございしますが、こ  
れは今回街路整備負担事業関係の起債として限  
度額を二百五十万円で追加計上いたします。

変更分として、<sup>種</sup>港、港灣、公営住宅、起債関係につき

まゝして、それだけ診議が済みまいなうで、三百五十万、四百四十万、五百五十万に限度額より変更を願ひたいという考えで計上いたしたものでございます。

一五ページから御説明申し上げます。

議会費二十二万追加、九節の旅費でございます。内容は説明のとおりでございます。御了承いただきたいと思います。

一般管理費として十一節に七万二千円、食料費として計上いたしたのが、最近大会議室等々使用がふえ、お茶等々使用がふえまいなうで、三月まで不足額を計上いたした。

十八節の備品購入費に二百十八万、計上いたした。これは広報宣伝用、自動車でございますが、すでに六車を経過いたした、で廃車して新たに同型



広報車を購入いたしたい。という考えで六十八万円、  
付属備品ともござります。

マイクロバス二十六人乗りのものを購入計画をいたしまして、  
だが、最近視察等、多人数で車を利用する回数  
がふえてまいりて、現在市の乗用車関係から申しま  
す。と三台全部出て、まうてあとう利用ができないとい  
うこともまゐりますので、そういう点も考え合わせ  
まして、今回付属品或いは暖房等を入りまして百五  
十万の範囲内でマイクロバス一台購入いたしたい。という  
考えで、総計備品購入費として二百十八万円を計上  
いたしております。

会計管理費旅費で二万二千円、これは三月までにお  
きます旅費の不足額の予想でござります。

十八の備品購入費といたしまして、キャビネット購入費

一万五千円、これは最近支出関係の帳票書類類の  
分量が多うございますので、こういうものを購入して  
保管を厳重にするということでございます。

負担金五千円は新たに設けらるゝ収入役会議の負  
担金でございます。

財産管理費として十九万一千円、説明にありますとおり  
登記手数料一件三千円といひまゝして五十件、十五  
万、これは土地の買収等といひまゝして市のものに名  
義変更をするもの、そういうものが現在うところ古い  
ものも含めまして約三百十件ばかりでございますが、これ  
を市が買収が素人ながらいろいろ法律をみたり、書  
式を見たりして登記を行なっている現状でございますが  
非常に複雑なものになりますと専門の司法書士の  
方にお願ひしてスムーズな登記を行なうということが能

率的ではいかというふうな考え方から大体五十件を  
専門の方に委託をいたさない。そうして登記の促進を  
はかりたいということでも十五万計上をいたしております。

その他にもちろん簡単なものには市が取置が行なつてお  
りますが大体今年いっぱい未登記と申しますか。そ  
ういうものを現在が半数以下に止めないという計画で  
ございます。その他自動車損害賠償保険料として  
四万一千円計上しております。

これは今回自動車損害賠償保険法がかわりまして  
原付自転車オートバイも強制的に保険に入るとい  
うことになりまして十六台分の保険料四万一千円で  
ございます。

諸費、工事請負費として西岬警察官駐在所建  
築工事費百三十五万計上しております。

西岬にあります。駐在所の建物が老朽化しております。非常に危険で、残り修理をしてもうまくいかない現状でございます。いろいろ折衝いたしまして、今回県の補助金が三十万入るといふ内定も参ったわけでございます。西岬の警察寮に駐在所を住宅部分十六坪、事務室二坪、合計十八坪でございますが、平均単価、七万五千円で新築。治安の警備をお願いしたいというものでございます。

二ページ、住宅費の中に住宅管理費として、需用費で十五万計上いたしております。

これは笠石にあります。市営住宅、那右にあります。市営住宅が、最近雨漏りがするといふ申告を受けまして、見積りを取ったわけでございますが、それだけ、十、十五万という数字でございます。早急に修理をいたしたい。

かように考えまして、総額十五万円を需用費として計上いたしまして。

・市民課長（羽山房雄君）一大ページ諸費のうち三十三節償還金、利子及び割引料三十万、これは法人市民税の更正決定分による還付金でございます。

次に徴税費のうち、税務総務費十八節備品購入費におきまして、十四万円計上いたしまして、これはただ今市民課で計算機五台持って市税その他を計算してござりますが、オリンピックの加算機を一台加えまして、能率化をはかろうと、もう一つござります。

二目賦課徴収費のうち二十三節償還金、利子及び割引料、二十三万円は先ほど法人市民税の還付金に対する還付加算金を計上したわけでござります。

次に三項戸籍住民登録費九節旅費におきまして

不足を生じまいたうで、一万五千円計上いたしまして、なお  
 原材料費として九千円、ビジブル・キャビネットのあります  
 台、木材代として計上いたしまして。

・収納課長(多田俊一君)一六ページ賦課徴収費ハ節報  
 償費におきまして七万円、これは税金の前納報償金で  
 ございます。一応今までの状況を申し上げますと、当初にな  
 いて固定資産税、県・市民税の一年分前納に對しま  
 して、約二百五十万という見込みのもとに二十六万一千円を  
 計上いたしたのでございますが、現状におきましてすでに  
 件数にして二千七百五十四件、金額で五百八十四万余と  
 いう前納がふえたいでござります。これに對しまして、  
 すでに三十一万五千円というのが見込まれます。

なお、二月までの見込みを立てなければいけないので、一  
 兆七千万追加いたすわけでござります。

・選挙書記長（大嶋重義君）選挙費について御説明申し上げます。  
今回、三十六万三千円、補正でございします。内訳としまして、  
選挙管理委員会費で十二万五千円、これは、永久選挙人  
名簿の実施がございします。それから、十月第一回の臨時登  
録が行なわれます。さらに三月には、定時登録が行なわれ  
る。それに対する事務費に不足を生じまいと、追加を  
お願いしたいというわけでございます。

二目、啓発費、四十五万円追加でございします。これは明  
かるく正しい選挙、啓発重点地区の指定を今回変更しま  
した。この啓発費を計上したのでございします。

啓発地区の指定について、御説明をまず申し上げたいと  
思います。

啓発地区の設定、趣旨でございしますが、これは前から  
公明選挙モデル地区というのを自治省で設定して



なるのでございますが、大体二つと同じものでございます。  
 自治省が昭和四十年年度からモデル地区というのを廃止し  
 まして、重点啓発地区に衣がえいたしまして、実施して  
 いるものでございまして、大体一都道府県当り二つ、  
 市町村を指定してあるわけでございます。

本県におきましては、市原市が去年指定されておりました。  
 本年度、館山市が二つ指定を受けたいわけでございます。  
 指定を受けますには、条件がございまして、それには、やはり  
 ニッパの啓発運動をする、に、商辦当は指導者と協力者  
 団体が得らねばならない、ということが一つ、さらに二つ、た事業が  
 地域の実情とか住民の要求に応ずるもので、その活  
 動が自主的に音に欲を激するものである、という二つが  
 一つと、それから補助事業でございまして、事業費は  
 三分の一が負担できると、いう三つがおもな条件でございます。



ましてそういうふうなことから、倉山市が今回自給省から指定を受けたりわけてございます。どうような事業を行なうかというところでございますが、本市といえましては、話し合い活動に重点を置いて、この事業を実施する。という計画でございます。

まず第一に推進員指導者、若う養成と申しますか、これを大きな重点としております。

それからさらに話し合い活動が一番効果的であると、いうところから話し合い活動を活動発に行なうということでございます。二つ、事業を行ないますために、各節に整理いたしまして、計上したわけでございます。おもなものでございますが、八、報償費、う七、九千円、これは推進員講習を行なうというところで、講師謝金、二人分、九千円、話し合い座談会を行ないますので、助言

者等、謝礼金一人千円で七十人分七万円、旅費五  
 万七千円、いは推進員、研修等を行ないます。費用  
 弁償が三万円、会議一般旅費二万七千円でござい  
 ます。需用費で二十九万一千円でございすが、この事業を行  
 ないますには需用費にウエイトがかかっているわけで  
 あります。消耗品が六万円、ミーティング事業を一般市  
 民に周知させていくというふうな考え方から街頭の標  
 語板を作るということでございします。

印刷製本費でございすが、これは推進員の講習  
 に用います。資料の代が三万五千円、話し合いを行な  
 います。資料が七万五千円、その他印刷費四万円と  
 いうわけでございします。

食糧費の十一万五千円、これは推進員の講習の際  
 の賄費、四万五千円、話し合い活動お茶菓子代六万

用という内訳でございす。あとは必要な事務費でございす。

それから三目う農業委員会う選挙費で二十一万二千円の更正でございす。が、農業委員会う選挙は無投票でございまして、こらう経費につきましても準備事務にかかつたが、七万円でございす。で、不用額を更正して二目う財源に充てたい。というものでございす。

庶務課長（山口実君）一八ページ五項統計調査費について説明申し上げます。今回農林省等におきまして、食糧消費総合調査を実施中でございす。

本市も上月十月から十一月十四日にかけて、この調査をするわけでございす。が、消費世帯六十世帯を選びまして、こらう家庭における食糧費一切を調

査するわけでございます。その費用が四万円にやう  
う費用につきまゝでは、果委託金として補助金で  
参るわけでございます。

議長(田中祿郎君) 午前の会議は二つにて休憩といた  
います。

午前十一時四十分

休憩

午後一時三十分

再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数三十一名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

第三款民生費より説明を求めます。

福祉事務所長(鶴沢寛寛君) 第三款民生費について  
御説明申し上げます。

一項一目社会福祉総務費におきまして、賃金で七万八千円、  
二は、社会係関係の事務補助といひまして、臨時取  
員、賃金でございます。

十九節負担金補助及び交付金で五万六千円、二は、  
安房地区保護司会という会がございまして、更正、保護  
事業につきましていろいろやっておるわけでございしますが、  
今年は更正保護婦人会というものを作りまして、活動な  
活動とやっておりますわけでございすけれども、安房地区保  
護司会は、定員が九十名でございす。こゝろ、館山市  
が二十七名でございまして、更正保護助成会の方から、還元金  
で運営しているわけでございす。それだけではこゝろ、  
仕事ができないうこと、佐民一人きり一月の割合で助  
成をお願いしたいということ、安房郡町村会の方で承  
認になつて予算化されておるわけで、今回館山市も二はに

ならいまして、五万六千円を補助金を出そうというものでございます。

二項一目、児童福祉業務費でございますが、報償費として五万円、これは館山市青少年問題協議会が今年度の重点目標といたしまして、スポーツ少年団の育成、青少年の交通安全、それから親切運動、この三つを重点目標としてやっていってまいります。青少年の行事報償費は、そういう善行表彰のための費用として一万円を組んだわけでございます。

旅費一万円不足分計上いたしました。

十九負担金補助及び交付金でございますが、十八万円、スポーツ少年団補助一万円、当初予算に五万計上しております。果が五万円、市が五万円、で、一万円、結成されたスポーツ少年団に対する補助金でございますが、

現在まで、大つう地区に少年団が作られておりますので、不足分一万円を計上していただいております。

スポーツ少年団育成補助金でございますが、一万円だけの補助では活発な活動ができませんということで、市独自で育成補助しようということで十二万円を計上いたしました。青少年相談員連絡協議会に対する補助金五万円、これは当初予算で二十五万円組んであるわけでございますが、果が三万円、補助金を出してありますので、同額、補助金を市の方から出して合計六万円にしまして、青少年相談員事業費というふうに計上していただいております。

児童福祉施設費でございますが、十九節におきまして十万円、遊具補助金がございますが、当初予算に十万円計上してあるわけでございますけれども、やはり青少年

年々交通費から守るためには、子供用遊び場を拡充と  
いうことが必要でございます。子供用遊び場に遊具を  
設置した場合に補助金をあつて、遊園地を拡充を期  
そうということでも十ヵ月計上になつてございます。

三項の生活保護費のうち総務費賃金四万七千月計  
上になつてございしますが、これはケースワーカー一人が長  
期にわたりまして病気のために休んでおりまして、その補  
助として臨時用人を雇ひ上げてございします。

衛生施設課長補佐（中村正雄君）四款衛生費につきまゝ  
御説明申し上げます。

保健衛生総務費でございますが、工事請負費が二十万  
六千円は現在大井場に二つの炉がございしますが、年度当  
初にもきまして一つは改修いたつたわけでございますが、  
残りの一つはつきましても、内部が破損いたつて改修



せざるを得ないという状態になっておりますので、この分  
として計上いたいたわけてございます。

十九節の負担金補助及び交付金でございますが、この  
たびの清掃法を改正によりまして、ゴミ処理におきま  
ては一日三十トン以上、一戸処理におきましては五十人以上  
の施設においては、一級技術士を置かなければならないも  
のと義務づけられたわけでございます。一か一ながら現  
在、市町村におきましては、それらの技術者を容易に  
獲得することが困難でございます。関係から日本環境  
衛生協会の主催によりまして、厚生大臣の認定の講習  
会を開くことになったわけでございます。従いまして、一戸処  
理関係から二名、ゴミ処理関係におきまして二名、この  
講習会を受講させたい。このようなことから講習会負担  
金として、四万五千円計上いたいたわけてございます。

清掃費うどんかい処理費でございます。正木処理場の  
竣工式にもきます。神宮謝礼二人分六千円計上いた  
りわけでございます。

需用費でございますが、これも竣工式におきます。食糧  
費一応百人を予定しております。記念品代と応待  
しますものでございます。

焼却炉の乾燥・完成いたしましてから完全操業をいた  
します間に炉或いは煙突の内部を乾燥しなければ  
ならぬ。炉一個について木炭一俵、炉が三つあります  
ので、百日分を計上いたした次第でございます。

投資及び出資金でございますが、焼却炉におきます  
勤務関係上、退庁後になりますと、管理人しかおりま  
せん。で、事務室と管理人室に親子電話を設置し、  
連絡に支障がないようにいたしたい。このようになると

計上いたした次第でございます。

一尿処理費でございますが、工事請負費において十万円、撒布炉床、金網工事でございます。

今までのとおり撒布炉床に若干ハエ等が発生いたしましてございしますが、その都度薬剤等を散布いたしまして極力ニよう発生を防止いたしておりますが、又若干御近所の方に御迷惑をかけたりします関係上、ここに金網をおおいをいたしましてハエの防止をいたしたい。このようなことで十万円を計上した次第でございます。

・農業委員会事務局長（山口太一君）第六款 農林水産業  
賞中、農業委員会費について申し上げます。

補正額十五万でございますけれども、これは農業委員の視察や打ち切り旅費といったもので追加いたしたものでございますので、よろしく願っています。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 農業総務費から申し上げ  
ます。今回六万の追加。これは自動車の燃料不足見  
込み額を予定しております。

畜産業費十四万七千円、追加でございますが、まず役務  
費で十万円、更正してございますけれども、従前家畜  
特に豚コレラの問題でございますけれども、防疫手  
料として市費に計上してやって参るつもりでござい  
ますが、事務処理上めんどうな点が出て参りますので、  
今回、これを削りまして補助金に切りかえまして支出いた  
したいということでございます。

にわとりや伝染病に対します補助金でございますが、  
これも従前なかったわけでございますけれども、にわとり  
におきましても法定伝染病がございしますので、にわとり  
予防接種、注射の補助金として半額の見込み。

七万五千円を計上いたしましてございます。

次に正本地区におきまして前年度小規模草地改良事業を実施いたしましてございしますが、今回効率事業補助金として七万二千円を計上いたしまして。

次の農地費の原材料費八万五千円でございしますが、これは御承知のとおり農道或いは用排水路等の小修理等に現品をもって小規模の場合、部落に交付いたしまして、補修修理を行なっておるわけでございしますが、最近の状況から見まして原材料費が当初見込よりもより相当出ておりますので三月まで不足分を一応八万五千円計上いたしております。

次に水産関係でございますが、水産業振興費におきまして二十三万一千円を追加でございます。その内訳といたしまして委託料五万円、これは伊戸組合ほか二組合からまきあげ

機うごく簡易な機械を作りたいという要望が出され  
まして一応の設計ができてまいりまして今回打ち切りと  
して五万円を伊戸組合に支出して試作させたいという  
ことで組んだものでございます。

次の負担金補助及び交付金でございますが、あわびの放  
流事業補助金として二万三千円、これは布良津に放流  
する予定でございまして約八万三千円程度の事業費  
でございしますが、県においてもある程度の補助が見込  
めます。市においても加えまして二万三千円補助いたし  
たいというわけでございます。

それから漁村の青壮年研究グループ補助八万八千円  
今回相安と館山漁協に付しまして、県は補助金が  
確定いたしまして、同額を加えまして二研究グルー  
プに補助したいということで計上いたしまして、

次に西リ名う放送施設事業でございますが、七万円、これは年度当初相決漁協におきまして漁業の放送施設を実施いたしまして、この際、やはり事業の三分の一程度を補助してございますので、今回西リ名におきましても概算二十万円の実施計画、三分の一、七万円を補助いたしたい、ということでございます。

漁港新設費におきまして、六十五万円、追加でございますが、これは伊戸漁港におきまして、ゆんせつ工事を計画いたしましてございますが、今回ようやく県の方で認定もほぼ内定いたしまして、今回六十五万円の需用費、ここに計上いたしております。

県におきましては十九万五千円の補助金が見込はれておりますので、これに対応しまして市費を盛り込みまして六十五万円支出いたしたい、ただ、地元で寄付金も一



応見込まされてゐるわけでございます。

土木課長（新井重助君）土木費のうち道路橋梁費二百  
道路維持費におきまして今回百万円追加をお願いす  
るわけですが、これは本年は非常に雨が多うございます  
で、路線の維持その他に原材料費として砂利を相当  
購入いたしました。今までの実績に照らして合せて  
三月の末日までになお多量の資材が必要になるう  
で百万円追加いたしまして市道の維持管理に万全を期  
したいと思つております。

道路新設改良費でございますが、百七十万円追加  
は市道の大神宮線に舗装、これは二カ年で計画  
しておりますが、バードセンターの関係もございまして果  
方で補助金を出すから本年度で仕上げてもらいた  
いという要望がございまして、果から百七十万円の補助



が参りまゝたうで、二より倍額、三百四十万の工事を執行して  
いきなり、かように考えまゝて補助金が百七十万を計上した  
わけでございます。二よりまゝて大神宮線の果道から  
安房神社の鳥居まで、間、四百二十メートルを舗装完了  
する予定でございます。

・建築課長(池田春雄君)住宅建設費について申し上げます。  
今回百十万八千円、追加をお願いいたします。

これは補助単価が上りまゝたので補助金の方を上り、  
工事費の見込み土地の買収等によるものでございます。

・消防本部次長(石渡東君)今回四十万円の追加をお願いした  
わけでございますが、現在富崎地区に可搬式小型動力ポン  
プで四十五馬力という小型のポンプは力の強いポンプがござ  
います。これが二より機動性を持たせる音味におきまゝて  
質のいい中古車を改造いたしまして積載車を完成し

たいということでも願ひたいわけでございます。

・教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君)教育費について御説明いたします。

教育総務費、事務局費でございますが、取員手当、旅費八万四千円、これは学校取員、兼務手当等の支給条例が光般可決まいりて、それによつて指導主事の兼務手当二名分計上した次第でございます。

報償費十五万六千円、更正でございますが、これは指導主事兼務手当、旅費等講師謝礼であつたんですが、これを取員手当と旅費に移したわけでございます。

十九節負担金補助及び交付金、郡市町村教育委員会、連絡協議会負担金、当初予算で二十一万願ひたいでございますが、総会が決定によつて二十三万二千円ということになりまして、二万二千円を追加、学校保健会が負担金

当初九万月お願ひーたんですが、こしも総金で一萬三千円追加というこになりまーたうで合わせて三萬五千円追加を願ひーまーた。

次に小學校費でございすが、七節賃金二十六萬八千円でございすが、臨時用人雇ひ上げ料、二十四萬五千円、北条小學校の用務員が病氣のため五月から休取ておきまーて、そのかわりに臨時用務員を雇ひ上げておる。その賃金でございまーて、十一月分でございす。

それから今度學校美化運動推進賞補助金といふものが、果から一萬八千円参りまーて、その關係の事業として神戸小學校、美化推進運動の人工賃二萬二千円、十一節の需用費、五萬円、消耗品三萬七千円、印刷一萬三千円、こけ北条小學校の言語治療關係の不足分でございす。

今回、果の方から言語障害児教育事業補助金、というが

三万月参りまして、これがこゝ一部取源になつております。  
 十二節役務費五万八千月、これは今回消防法にまゝして、  
 各学校等に備え付けてあるところ、消防火器を点検  
 一打ければならないということになりまして、その手数料、それ  
 が三万八千五百月、それに加えまして、検便手数料、不足八千  
 月、電話の設備加入料が一方三百月、合わせて五万八千月  
 次に委託料が十万八千月でございますが、言語治療教室と  
 して新たに二名、研究員として、お茶の水大学にいつておる  
 りでございますが、二人の研究委託費として十一万八千月、  
 工事請負費、十五万六千月、これは西岬小学校の土手の  
 積み上げ工事、長さ八メートル、高さ二メートルの工事、  
 神戸小学校の排水工事となつておりますが、新たに新校舎  
 の雨という排水路、それが土間に直接落ちて非常に  
 うわばきで歩いて困るというところで、今回改修する。

船形小学校の渡り廊下についてはコンクリートで下を固めて渡り板を使わねいでそのまま通れるという約四・五坪の工事でございます。

十六節 原材料費 一万八千円 神戸小学校の美化推進関係の費用 木材等、材料費

十八節 備品購入費 三十万円 北条小学校の放送器の購入費でございます。

北条小学校の放送器は昭和二十二年に購入したもので使用不能に陥っておりまして、特殊寄付半額をいただいて購入したいと考えております。

十九節 負担金補助及び交付金 八万八千円 については学校安全会より共済掛金でございますが、条例改正をお願いいたします。十八月から二十九月になった差額をお願いいたします。次第でございます。

次に教育振興費のうち節報償費二万三千円、これは言語治療研究会の講師謝礼として二名分をお願いいたします。

十八節備品購入費言語治療教室の教材費不足のためのものでございます。

次に三項のうち中学校費八十四万九千円、補正、まず十一節需用費四万八千円、これは一中関係の果から特殊教育研究費補助一万円でございすが、その関係のもの消耗品費五千円、印刷製本費で一万一千円、それに修繕料として玄関の屋根の修理でございます。

次に十二節の役務費二万七千円、これは消化器の検診手数料一万七千円、電話設備加入費一万円、工事請負費三十三万円を更正、これは二中の中や窓の改良工事を十六節の原材料費四十万ありますが、木材等を使って教育委員会にわたる

大工と二中にいる使丁が大工の心得があるので窓の改造工事をやつて四教室と図書室をつくらうでございしますが、その原材料費二中分三十五万円、その他に房南中、一中、四中等の原材料費五万円でございます。

次に十九節の負担金補助及び交付金でございますが、七万四千円、学校安全会、共済掛金、十八月から十九月に改正した関係から、その差額をち願ひました。

次に学校建設費の十五節工事請負費、六十万、西岬中学校の玄関の新築工事でございます。西岬中学は玄関がなく、校長室もないという状態でございます。非常に不便をかけておたうでございしますが、今回十坪、単価六万円という計算でやりたい。

高等学校、十七節公有財産購入費でございますが、四十六万六千円、これは館山高校の校地購入費、館山高



校す玄関、下に百五十二坪、八十名、共有地がございます。  
 こううち十名位は行方不明でどうにもならないのでござ  
 います。現在わかっておりますが、七十三名おります。  
 この七十三名と売買契約を結べば、登記もできるとい  
 うことで、七十三名分を持ち分を購入してあと残りう七名  
 分とそれから館山市と共有地という形で作っていきたい。  
 こういうことで、ここに四十一万六千円をも願ひいた次第で  
 ございます。

次に幼稚園費でございますが、六十三万四千円、追加で  
 ございますが、一節の報酬一万五千円、西岬幼稚園、園  
 医、歯科医、報酬を当初予算で落しまいなうで、ここ  
 にも願ひいた次第でございます。

賃金、六万六千円、これは那古幼稚園、先生が産休  
 しておりますので、その雇い上げ料、富崎幼稚園の先生



が病気でございすが、長く休んでおりますので、そのかわり  
の雇へ上げ料でございします。

八節報酬費三万円、これは昭和四十一年度、幼稚園、教  
育課程研究推進校、指定を館山幼稚園が文部省から  
受けて、その関係で文部省、係官を呼んで、研  
究会、千葉大、教授を招いて、研究会、県指導課  
その他、講師を招いて、研究会、その講師謝礼として、三  
万円、旅費二万円、これは館山幼稚園、公開研究会等、  
打ち合わせ旅費、それから山形市における文部省主催  
の教育課程研究会に提案者として、依頼があつて、その  
旅費として一萬二千円。

十一節需用費、消耗品費、西岬幼稚園の分として五万  
円、印刷製本費一萬八千円、食料費八千円、この二つ  
は、館山幼稚園関係の研究レポートの印刷代、公開研究

会用具食糧費といふことでございます。

修繕料十萬二千円、これは館山幼稚園の園舎修理九萬二千円、北条幼稚園の園具等の修理一萬円でございます。十二節役務費八千円、これは防火塔点検手数料、大本分と館山幼稚園の公開研究会用具通信費でございます。十五節工事請負費二萬二千円、館山幼稚園の手洗場の新設工事。

十六節原材料費四萬一千円は、西岬幼稚園の土管、木材等の材料費でございます。

十八節備品購入費三十萬四千円、館山幼稚園関係の研究会用具図書購入費二萬円、同トく館山幼稚園の机腰掛購入費六萬二千円、西岬幼稚園教材購入費十二萬、付属幼稚園から単独になった関係上、取印の購入費一萬二千円でございます。

西岬幼稚園関係は新設のため十六万円の国庫補助がござい  
ます。それは収入の方で考えております。以上でござい  
ます。

。社会教育課長(原間利一君) 議案第五十八号の第二条でござ  
います。が、債務負担行為の補正という点で当初アール  
浄化装置施行費で四百九十一万八千円を計上願ったわけ  
でございしますが、設計並びに施行費の資料をいろいろ  
検討いたしますとともに特に機械を持ちます。浄化機能  
操作用の問題、水道料金維持費等を検討いたします。中  
で、珪藻土式で行なえば、二百二十八万でできるということで  
その方に進めて参った関係上、このように補正をお願いす  
る次第でございします。

次に社会教育費と保健体育費について申し上げます。  
公民館費、旅費でございしますが、公民館長、副館長、分館長

さんい研修願うということにて当初二万計上しておいたわけ  
 でございますが、さらに県内、公民館、視察並びに県  
 の公民館大会、或いは県外視察ということをお考えまゐ  
 さらば二万月の追加をお願いしたいということでございます。  
 次にナール需用費でございますが、一万五千月修繕料と  
 いうことで豊房分館に七千月、公民館の備品になつてお  
 ります消火器の修理ということでは八千月をお願いする  
 わけでございます。

次に保健体育費、一項保健体育総務費、九節旅費、  
 今年体育指導員が新たに七名聘任命を受けたいわけ  
 でございますが、そういった方々に体育指導員の方、活  
 動というふうなことで先進地に参つて研修願いたい。

加えて体育委員役取にある三名と計十名ということ  
 で費用弁償半額負担ということでは一人二千四百月計

二万四千四百円ということにて二万二千円計上してあるわけでございます。

十二節 役務費、市営プールの電話料、保健体育の方で進めておりますスポーツ教室関係の通信連絡費等合わせまして一万四千円をお願いするわけでございます。

体育施設費でございますが、十一節の需用費十五万三千円、これは市営プールに消耗品ということにて特に薬剤関係で珪藻土に十二万九千四百円、塩素ガスに二万八千四百円という二で十五万三千円をお願いするわけでございます。

十二節 役務費、消火器の点検手数料、それから塩素ガス、ポンプをお願いするわけでございます。

備品購入費でございますが、浄化装置の薬品に伴いまして塩素ガスをポンプを使って操作するということな関係で一本一万三千五百円ということにて二本分二万七千円をお願い

申上げの次第でございます。

財政課長（長谷川広治君）以上歳出の補正額千六百三十万四千円ということに相なります。

続きまして歳入を御説明申上げます。

一ページ今回補正におきまして臨時地方特例交付金二百二十万九千円を計上いたしまして、前回の補正うときにも申上げました本年度だけという制度でございますが、総額千五十二万八千円の交付金の補助指令が参りまいなために今回歳入の関係から二百二十六万九千円を計上いたしまして全額予算計上済めという事にいたした次第でございます。

四款分担金九万四千円これは条例議案うときに申上げまいなとまりの増額による数字でございます。

五款使用料及び手数料として五万円更正二いも歳出で申

ーとグマールを豚コレラに予防注射の額の変更によるものでございます。

国庫支出金として百二十六万八千円、これは市営住宅の建設に伴う単価の増額によるもの、百十八万八千円、西岬幼稚園の設立に伴う補助金十六万円でございます。

県支出金といひまゝ、県負担金で七万二千円、これは正木地区の電牧補助金でございます。

県補助金で二百六十一万六千円、これはそれぞれ歳出におきまして御説明いたしまゝの事業に伴ひまして予想されます収入でございます。

大きなものは伊戸漁港整備事業補助金十九万五千円、大神宮線の新装工事の補助金百七十九万、選挙の常時啓発補助金として三十万、西岬の警察寮官駐在所建設補助金として三十万等がおもなもので



ございましてあとは説明欄により御了承いただきたいと思います。

九款の寄付金は百三十三万三千円を計上いたしまして、

これは、それぞれ歳出執行に伴います地元寄付金でございます。大きなものでは教育寄付金として四十五万総務費として西岬警察官駐在所建築に対する地元寄付金三十万等がおもなものでございます。

十一款の繰り越し金として百五十二万五千円を計上いたしまして、四十年度の繰り越し金につきましては現在決算者がございまして計数を検討中でございますが、大体四千八百万程度の繰り越しが出ておりますので、そのうち今回財源関係をいりみ合わせまして、百五十二万五千円は計上いたしたわけでございます。

十二款の諸収入関係で電話柱を土地を提供して建



ててあるわけですが、その貸し付け料として一万円計上しております。

一四ページに市債の補正総額七百九十万円、港湾整備関係の市債として百五十万円、港湾債として二百四十万円、住宅債として百五十万円、土木債として二百五十万円、その他起債総額が済みまいなりで、ほぼこの額が増額できるという内示でございます。これを全額計上いたします。今までこのよう事業に対して一般財源として使用しておいた財源をこの起債に振りかえて、このように財源補正もかねております。以上が歳入のうちおもなものでございまして、歳入と同額千六百三十四万円ということに相なります。以上で一般会計補正予算の説明を終わります。

議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午後 二時十七分

休憩

午後 二時三十分

再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

議案等五十九号より説明と求めます。

保健衛生課長(池田亮山君)議案第五十九号国保特別会計補正予算について御説明申し上げます。

今回事業勘定におきまして六十五万八千円、直診勘定におきまして三十四万八千円、合計百万六千円を追加いたします。

歳入歳出とも二億千五百五十四万二千円といわれています。

なお、これが財源といわれています。事業勘定におきましては、繰越金、直診勘定におきましては、診療報酬

酬の増加見込み額をもつて賤源といたまいた。

詳細につきまゝては明細書によつて申上げたいと思ひます。  
まず、事業勘定、歳出でございますが、四款基金積み  
立て金に準備積み立て金として六十五万八千円、追加  
でございます。こゝは療養給付費を支払い預託金、  
準備積み立て金でございます。前年度当初より連合会  
り預託金といたまいて積み立て金を慇懃心しておる  
わけでございますが、賤源の関係で当初は預託しない  
予定でおつたわけでございますけれども、今回四十年  
度の決算の状況を見まゝて若干賤源の余裕を見ま  
ゝて、今回追加いたしまして合計六十五万九千円、預託  
をいたしたということでございます。

なお、預託金の積算でございますが、被保険者一人当り  
四十円を目標として各町村へ勧奨しておるわけでござ

ございます。当市といひまゝではすでに四十九万円の積  
 金は一つあるわけでございます。

四十九万の被保険者数に乗じまゝの数が百十四万九千円ござ  
 います。

それに対する不足額が六十五万九千円となるわけでございます。  
 なお、今回積み立て金に限りまゝで年利率を六分とす  
 るということでございます。

重ねて申し上げますと、今回積み立てます分は市町村の  
 財政の状況によりまゝ取りくずしうでざる積み立て金  
 でございます。四十九万円につきまゝでは取りくずしうでき  
 ない積み立てでございます。なお、歳入面は前年度繰  
 越し金の中から六十五万八千円をこの財源に充当してご  
 ざいます。

直診につきましては、事務長から御説明申し上げます。

・豊房診療所事務長(平柳徳蔵君) 豊房診療所関係の  
予算で申上げます。

歳入歳出とも三十四万八千円でございますが、歳出について  
御説明申上げます。

総務費十八万九千円、内訳は賃金十一万一千円、現在診  
療所の方も入院外来とも患者数がふえまして現在  
の看護婦では不足でございまして、看護婦を雇上  
げまして、その額が三月まで十一万一千円でございす。  
修繕料七万五千円、これは診療所の往診用、自動  
車修理、役務費として三万円、バイクの損害保険を掛  
けなければならぬというのに、なりまして、これが三万円で  
ございす。

次に医業費といひまして十三万円でございすが、診  
療所のレントゲン施設関係の修繕料でございすが、

現在手動式でもって操作してあります。操作上手の間ばかりです。これはモーター式の自動式にかえたいと思っております。修繕料として十三万円。

次に施設整備費として二万九千円でございすが、これは水源でございすが、井戸でやっております。井戸が非常に水不足でございす。市営水道でもって応急的にやっております。計上いたしますのでございます。

賃金として五人分二日分一万八千円。原材料費として六万六千円。以上合計三十四万八千円になります。

これに対する歳入として診療収入二十七万三千円を計上いたしております。これは入院もふえます。二十万円の収入増が見込めます。計上いたします。

それから雑入でございすが、七万五千円。これは自動車

損害保険がある見込みでございます。計上いたしまして、  
合計歳入として三十四万八千円でございます。

・高工観光課長（小沢正治君）六十号館山市休養施設特  
別会計補正予算について御説明申し上げます。

今回九十六万五千円の追加をいたしまして二千七百四十三万  
五千円とするという補正案でございます。

歳出から申し上げます。九十六万五千円の内訳をいたしまし  
て需用費六十一万円の追加でございます。

工事費として風呂場、下回りがいって参ります。これ  
関係で、二、三が三万五千円、消防法改正に従いまして火  
災報知器の設置が必要であるというところで八万円、  
備品の購入費をいたしまして食堂のテレビ一台と座  
ぶとん五十枚の補充ということとで七万五千円、合わせま  
して九十六万五千円の追加でございます。



ニよる財源といひまゝでは九十五万六千円を事業収  
入で見込みます。

あと九千円を先般六月に全般的な松食い出の防除を  
実施いたしましてニよる對して果から九千円の寄付金  
を交付するということがございまして、ニよる受け入  
れまして合計九十六万五千円となるわけでござい  
ます。

続きまして六十号のユースホステル特別会計でござい  
ますが、十六万円を追加いたしまして合計額、それぞ  
れ歳入歳出とも四百二十三万六千円というわけでござ  
います。細部につきましては、歳出の関係から申し上げ  
ます。

十四節の使用料及び賃借料、敷地賃借料、大蔵省  
の千葉総務部から最小額、約千九百九十坪でござ  
います。賃貸契約を締結してほいという要請に基  
きまして、ユースホステルに必要地を最少数限を借  
りまして



貸貸契約をいたします。ニより貸貸料が九千二百八十四円  
でございます。ニより分として一百万円、貸金十五万円  
は、アレントが年度当初入院いたします。ニ関係で十五  
万円、不足額を追加いたします。ニ次算でございます。  
十六万円、賤源といたします。ニ前年度の繰り越し  
をもち、充当するといふわけでございます。

生施設課長補佐（中村正雄君）議案第六十二号昭和四十一年度館山市上水道特別会計補正予算について御説明申し上げます。今回三十万六千円追加いたしまして、歳入歳出それぞれ五百三十八万円といたうと、いうふうに考ふる次第でございます。なお、第二款に諸支出金を設けたい。五一ページ、歳出から申し上げます。

事業費、統務管理費、十四節使用料及公賃借料現在

市におきまして、宮城、上水道及び鉈切、夜左間、蘭馬水道と三つ水道を経営しておりますが、夏季人口が増加におきまして、一部においては、どうしても完全給水ができませんというふうな事態が起るわけでございますが、海般におきまして、そのような事態が起るまいと、急拠タンク車を借り上げまして、給水を行なったわけでございます。

借上げ料として五万円を計上したわけでございます。十八節の備品購入費でございますが、たびたび申上げましたような事情、或いは配管の欠損、風水害というふうな関係から、どうしてもタンクローリー車を常備する必要が出て参ります。各市におきまして、現在、そういうふうな方向で進んでおります。

三つの関係から、それぞれ専門の方々に十分検討した上で、いかなるわけでございますが、三十万を計上して、中古の

タンクローリー車を購入したいというものでございます。

水道管理費の補償金及び賠償金でございますが、宮城水道は旧海軍によつて作られたものでございまして従いまして配管等も軍用地に配管してあるわけでございます。終戦後におきまして、それにより前地主等に払い下げを行つたわけでございます。そのような関係から払い下げ地を水田或いは畑として耕作してあるわけでございますが、たまに水田にいた部分の地面から若干管等が出て参りまして耕作に支障をきたしておるということでございます。まして、その面積が大体距離にいたしまして六十メートルあるわけでございます。こゝろで耕作者に対して、五千円を補償費として計上いたしましてございまして、諸支出金・償還金・利子及び割引料でございますが、四十年度より水道料金におきまして、若干の過納金が出

まーたので、ニョラの払い戻しに充當いたらないと考えるわけでございます。

次に歳入使用料及び手数料でございますが、夏季にもきます需要の増加によりまして、現在約三千八百トンの給水が確定となりまして、ニョラに対応いたします。九万四千円を水道収入として計上いたいたします。

田款繰り越し金でございますが、現在約八万三千円、繰り越し金が確定となりまして、その差額二十万二千円を計上いたいたします。合計三十万六千円でございます。以上でございます。

議長(田中祿郎君) 本日の会議はニョラにて延会いたします。次会は明二十九日を議案審査のために休会と一明後三十日午前十時開会といたします。

その議事は請願書 通告質問 及び議案第五十号乃

至六十二号の審議といえます。

午後二時五十分 延会

本日の会議に付いた事件

一開会

一議長報告(出席説明者)

一会議録署名議員の決定

一会期の決定

一市長議案提案理由説明

一報告第三号

一議案第五十号乃至第六十二号

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石伝 蔵

田中 祿郎

秋山大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

菊井 敏博

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

黒川 佐太郎

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

中村 省吾

島野 茂樹郎

萩生田 七郎

嶋田 繁

山田 敬宇

鈴木市蔵

安藤 亀吉

安沢 徳順

三沢 節

高橋 文治

山本

昇

板本藤太郎

山口

康

欠席議員

君塚喜三

